

中学校社会科地理的分野の世界地誌学習における 地歴連携授業の開発と検討

服部舜平

現行の中学校社会科と高等学校地理歴史科の学習指導要領では、地理と歴史を関連させた学習を重視することが示されている。これを受けて地理と歴史を関連させた授業についての研究や実践が行われてきたが、その数は少ないため研究と報告の蓄積が必要である。

本研究は、中学校社会科の世界地誌学習における地歴連携の意義や留意点などを分析し、地歴連携のあり方や課題を提示するものである。そのために、筆者は学習指導要領や論考、授業実践例などから地歴連携と世界地誌学習について様々な分析を行い、地歴連携の要素を取り入れた世界地誌学習の授業開発と授業実践を行った。

地歴連携についての分析では、多面的・多角的に考察する能力を育成することや、地理的内容の理解を深めさせることなどが期待できると分かった。世界地誌学習についての分析では、各地域に主題を設定して、それを中心に学習させるということや、主題の設定の際の留意事項などが分かった。

また、これら 2 つの分析を踏まえ、地歴連携の要素を取り入れた世界地誌学習の意義と留意点を提示した。意義については、地誌学習にストーリーを展開することができる点などの 4 点を提示した。留意点については、学習内容の多さによる負担を生徒に与えないために歴史的内容を精選する必要がある点などの 3 点を提示した。

そして、これらの分析の結果を踏まえ、アフリカ・北アメリカ・ヨーロッパの 3 地域を対象とした地歴連携授業の単元構成と指導計画の作成を行った。また、その中のアフリカ地誌の模擬授業実践を行い、地歴連携の効果と課題の検証を試みた。

地歴連携の効果としては、アフリカの地域的特色の理解を深めさせる効果などの 2 点が明らかになった。しかし、地歴連携についての課題も多く、歴史的内容の選択と精選の課題や、授業展開における歴史的内容への導入の課題などの 4 点の課題が明らかになった。そして、これらの課題を踏まえて 3 地域の授業案の改良点を提示した。